

KSKP Threshold

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニュースレター Vol.27

～すれっしょんど～(出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュョルドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です



We can start over again 何度でもやりなおせる

何ヶ月もニュースレターが発行できず、皆様にお待たせしておりましたが漸く発行に漕ぎ着けました。ここで書くかどうか非常に迷ったのですが、神戸ダルクでもコロナに感染する事態が生じていました。特に最新の注意を払って取り組んでいたものの、このようなことになり、その中でも若干名が重症化したことで、本当に命の重さを感じ、仲間一同で不安の中、仲間の命のために祈る日々でした。一月以上にわたる闘病生活の中で、全員が無事にダルクに戻ってきました。私自身も8つの病院に入院している仲間の対応で家にも帰れず、車の中で寝る生活、その中で妻が調子を崩し家に急いで帰るの繰り返しでしたが、重症化した仲間を対応してくれたドクターが最後に「あなたたちは本当に頑張ってくれました。迅速な対応で動いてくれたおかげで助かったようなものです。ありがとうございます」と言っていただけでした。その時に、全ての背負っているものが吹き飛びいっぱいの涙が溢れてきました。

その後、実際には全員が無事だったのですが、私自身も感染し、重症化してしまい、「保険と色々な準備をしておいてください」と医師に告げられました。熱量だけでやってきた私ですが、40日ほどの闘病生活で全く動けない状態で天を仰ぐしかありませんでしたが、仲間やスタッフが自分たちの責任は自分たちにあると、助け合いながら施設を守ってくれて今日があります。命の危険にさらされていた時、薬物依存で死を感じていた頃と同じ心境でした。今は仲間達と自助グループや施設を立て直す作業を共に行なっています。そのようなことから、施設を閉鎖していた時期も含めて、金銭的にも莫大な損害が生じましたが、誰の命も失うことなく生きていれば、何度でもやり直せると心で感じています。心苦しいと思いますが、皆様からの支援を待っています。どうか助けてください。神に感謝。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ インフォメーションセンター

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

〒653-0041 兵庫県神戸市長田区久保町 7-7-18

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

共同生活援助(グループホーム) リカバリーホーム TEL078-647-7744 (神戸市須磨区)

姫路アディクションサポートセンター 〒670-0832 兵庫県姫路市双葉町 96 Tel 079-255-5033

智頭リトリートヴィレッジ 〒689-1411 鳥取県八頭郡智頭町八河谷杉の木ランド テニスコート下

www.kobedarc.org

神戸ダルク

検索

家族支援と私の歩いてきた道 神戸ダルク代表 梅田靖規

私がダルクに繋がって、社会に挑戦し、もう一度学ぶことを自分の糧とし、そしてまた回復支援の、というよりも回復を仲間と共に歩いていくという道に戻ってきて、まもなく 15 年になろうとしています。その中で、さまざまなことがありましたし、自分の本当の意味での狂気も目の当たりにしてきました。月並みな言葉ではありますが、仲間の中にいたからこそ生き延びてきたと思いますし、自分の自我のまま、一つの夢を叶えようと歩いてきたわけでもありません。気がついたら今日一日の中で一喜一憂し、仲間のアドバイスに自分の可能性とワクワク感を見つけ、その都度の道を歩いてきたと思います。気がついたら、「自由」のいみを心で体感できる今にたどり着きました。でもそんな日々の中で、ずっと考えてきたことがあります。それは、私の心の中にある「家族」についてです。家族には感謝しか感じないと言いつけていた時期もありました。薬物依存によって自分の未来が見えず、闇雲に家族を恨んだ時期もありました。典型的な共依存の関係であったと感じている時期もありました。他の家族には真似できない絶大な愛を注いでくれたにもかかわらず、不器用な機能不全家族の関係で自分が受け取れなかったと感じていた時期もありました。どれも、その時その時の自分の心が作り出していたものだということも今ではわかっています。

私はあることに気が付きました。私は幼少期に受けた傷でトラウマが生じ、その傷を抱えたまま大人になったと思っていましたが、そうではなく、幼少期に私が感じた心の寂しさや傷を、ずっと自分一人で抱えてきたことが私の依存症に影響してきたと今は思っています。私は薬物を友達と一緒に使ったことはありません。一人でずっと使ってきました。最初はどんな薬も、私が安心して少しの間、心が軽くなるという気持ちで使ってきました。確信的に今でも私の使い方はそうでした。誰がなんと言おうと、止められるわけがありません。登山で疲れ切った身体で、効能のある熱い温泉に入るような感覚だったと思います。

それでは、私の幼少期は、悪い両親から傷つけられていたのでしょうか？それも違うと思います。それを理解したのは、ダルクでのミーティングの中で、自分の思っていることを正直に話し出した頃だったと思います。私は長男で、両親が抱えている傷や背負っているものを、察知できる子供でした。だからいい子でいないといけなかったと思っていましたが、子供の僕にはそれを背負うキャパシティはなかったと思います。私の両親もたくさんのものを背負って生きていたことを感じ取れる子供だったと思います。両親も不器用だったと思います。そんなことを自分の傷も含め考えられるようになってきたのは、自分にも新しい家族ができて、その家族を必死に養おうという気持ちでやってこれたからだだと思います。つまり、自分自身が今は不幸ではないと思えている環境にいるからだだと思います。自分が幸せと感じてなかったら、何も気が付かずに今でも生きていたと思います。子育てを妻とすることで、両親にしてもらったことを思い出します。ときに両親にしてもらえなかったことも役に立っています。

決定的に私が、自分の抱えているものを、答えが出ていなくても背負わなくても良くなったのは、茨城ダルクの岩井さんの言葉でした。

昨年、神戸ダルクの家族会に岩井さんにきてもらった時、数年ぶりに向き合って話してくれました。もしかしたら茨城ダルクに入寮してから初めてだったかもしれません。僕は、ずっと茨城ダルクでは、必要としてもらってなかったという妄想で過ごしていたので余計にそう思います。

その岩井さんに、これまでどうやって過ごしてきたか話をしていた時に、今の妻と神戸にきて、親を頼ることもできずに双子が生まれ、育てていかなければならないという状況で必死だったという話になった時、「それがよかったんだな。親元にいたら子供たちを育てることもできなかっただろう。だからお前は立ち上がることができたんだ。よかった。」と優しい親父の顔で言ってもらえました。その後、間髪入れずに「子供が生まれたのに、俺のところに連れてきて挨拶にまだきてないのはどういうことだ！」といった岩井節でしたが。。

そもそも、妻と結婚して子供が産まれる時に、母は、必死に育てて回復させた愛する息子を取られてしまったという状況だったと思うので、クリーン 9 年目のその時期に「つきはなし」を意図的にはなく感情のままにしてくれました。共依存の母ですから、意図的に突き放すことなどできないのは、僕も承知の上です。回復の道を歩く上で、決してプログラムをしっかりとこなす母ではなかったと思い

ます。どちらかというと、私のために私と心中する覚悟で、自分の育て方を悔やむ母だったと思います。僕はそこに漬け込む息子でした。私と母が、意識的ではなく、子育てに必死になったことで、お互い無意識に健全な関係になって行ったと思います。時間は非常にかかりました。私は、この自分のトラウマ的な過去を解決することが私の使命だと思っていました。母にも、私が自分の依存症を悔やんで自殺未遂を繰り返した時に「あなたは、ただ生きてるわけじゃない。この先に生きる意味があるから生かされているんだよ」という言葉は、回復の中でいつも頭の中で共鳴していました。

私の生かされている意味は、私が幸せを感じ、それを私の周りにいる人の希望になることなのではないかと思っています。今があります。

私は神戸にきて一番最初にやったことは、家族会を開けることでした。無意識と意識と願望の中で動いていきました。狭いダルクの2階で始まった家族会ですが「ここの家族会は本当に居心地がいい」と言ってもらえるようになった時には、参加してくれる家族に無償の愛をいただいていた。

私はこれからも、一人で傷を抱えている仲間と出会っていきましょうし、共に歩いていくと思います。



資格勉強で得たもの にっしん

だいぶ前のニューズレターにも書かせていただいたのですが、一昨年より「公認心理師」という資格を習得する他の勉強にチャレンジしています。全くの知識もなく、現認講習会や参考書を見ながら勉強をしてきました。去年ははじめて聞くような言葉が沢山あり、四苦八苦しながら取り組んできました。無論、試験問題を見た瞬間にコレは難しい、ちょっと無理だと、問題用紙を開いて数分で思い、あえなく撃沈しました。もう少し勉強をしなくてはとの気持ちで、今年もチャレンジしました。youtubeでの動画や過去問を何度も解いたり、資格とは別の研修に参加させていただくなかで関連する言葉や知識を知ることができました。勉強だけでなく、ダルクでの仲間のサポートをする中で耳にする言葉や支援していることが学んだ知識が繋がっていき、少しずつですが、自然と身についていってる感覚を感じることが多くなってきました。

この資格では「他職種連携」が重要視されています。姫路での相談窓口の挨拶をさせていただく中で多くの機関の担当者さんと話をしてきました。もし資格取得したら、挨拶に伺った機関の方と連携していくのかなあといいながら会話もさせていただきました。またダルクでのプログラムでの報告連絡相談、仲間との協力は必ず身になるのではと考えるようになり、自分なりにでき取り組んできました。自分のコミュニケーション不足や失敗、上手いかわからないときもあり、自分ではどうにもならない無力感を感じることが多くなってきました。自分が持っている感情や困っていることを色んな人に助けを求めていくことを一歩一歩ですが行っています。社会人として働いていたころ、こんなにも考えたり助けを求めたりしてたかなあ。。と思うと少しずつ少しずつ生き方がわかっている部分もあるだと感じました。試験一カ月前から本格的に試験勉強もしていき、梅さんの配慮で2日前からホテルにて前のりさせていただき試験に臨むことができ、試験会場の近くにたまたまあった神社で神頼みをし、落ち着いた気持ちで取り組む準備ができました。試験中も解きながら、去年よりは問題文が何を問われているかが分かったりとしこし知識が身につく感じがして臨むことができました。次の日、有志の方が作っている試験解答サイトで採点すると何点か足らず、「悔しい。」という感情と言葉に出してしまいました。久しぶりにこんな感情になりました。まだまだ正式な合格発表はまだですが、2年ほどの月日の資格勉強を通じて様々なことを得てると感じ、感謝しています。合格を信じて祈ります。



私の体験談 「日常から非日常へ」

おっちゃん

令和3年1月20日、この日を境に私の日常は非日常へと変わっていった。午前7時いつもはそんな早く起きて来ないはずの私に母が

「あら！？お早うさん。えらい早起やね」と声を掛けるも「トイレ行ったらもう一度寝る」無愛想に答える。食卓にいた父が怪訝そうな面持ちで「たまには一緒に朝ごはんを食べんか」そんな何気ない朝のやりとりの最中、呼鈴が

鳴る。母が玄関へ向かうとすぐに戻ってきて慌てた様子で「ちょっと…△署のものです。〇〇さんいますか？ってきてるけど…何なん!?あなた、何かしたんか!？」と私に迫る。私は直ぐにピン！と来た。と同時に「ああ…ついに来たか…」と、諦めの言葉を心の中で呟いた。そして、ある覚悟をした。



実は私は26歳くらいの頃から市販薬で咳止め薬の「ブロン液」を乱用しており、実に25年もの間、ほぼ毎日飲み続けており、立派な薬物中毒者です。薬のせいで職を失い、友人も失い、信用信頼を失った社会からの落悟者であります。当然収入は無く、ここ数年親のスネをかじりながら暮らしていました。そんな無職で無収入の私が1本600～1000円の薬を1日に5,6本も飲み続けられたのは親の財布から度々お金を取ったり、預金口座から勝手に引き出したり、返すアテもないのにサラ金から借金をして何とか薬を買うお金を工面してきたが、最後に手を出したのが他人のお金、つまり窃盗を働きました。逮捕される2年程前からほぼ毎日、自分の車で街中を走り回り、ドアのロックがしていない車を物色して財布を取る。お金が手に入れば即座に薬屋に向かい手持ちのお金で買えるだけ薬を買って飲むを繰り返し、被害総額は100件以上で、被害金額は200万以上とのこと（警察調べ）。

こうして私は薬を買う為だけに日々窃盗を繰り返していましたが、いつまでもそんな事を続けていられるとは思っては無く、いつか警察に逮捕されると思っていました。そしてついにその時が来た！玄関から5人の私服警官が2階への階段を上がり、更に私の部屋に続く3階へと上がって来る。足音が私の鼓動とリンクする。そして対面！1人の刑事が一枚の紙切れを私に見せて来て、「〇〇さんですね。あなたに窃盗の容疑で裁判所から差し押さえ捜査礼状が出ています。只今よりこの部屋と車、この家の中全てを調べさせていただきます。」とテレビの「警察24時」で見た容疑者宅での一連のやりとりと同じ事が今、私の目の前で起きている。別の少し強面の刑事が私に詰め寄り、「もう判ってる事やから取ったもの、財布とかあったら全部出してしまいや！隠すと面倒やで！」と強い口調で行ってきたが、私は元より隠すつもりもなく部屋に置いてあった2つの段ボール箱を指差して「ここに全部あります。」とあっさり白状し段ボールの中からは財布が約70個、他人名義の免許証やカード類が約200枚程が入っていた。刑事は驚いた様子で「なんとまあこんなに沢山…何で捨てずに取って置いた？」と聞いてきた。「総てまとめて山奥に運び、焼き捨てようかと…」本当は財布は低度の良い売れそうなブランド物を他府県の質屋カリサイクルショップへ持ち込もうと思い、カード類は窃盗の戦利品として取り置いて収集していた。部屋にはこれとは別に大きな段ボール箱が他に数個あり、当然その箱も開けて調べられたのだが、中身を見て刑事は更に驚く。



「何やこれは…!?」箱の中身は私が飲んだ薬の空ビン空箱が大量に入ってる。その数は実に 1000 本以上…これには正直に話す。自分はブロン液の乱用者である事、両親にバレないように、自室に取り置いてまとめて捨てようと隠していたが、捨てに行く機会が無く留まってしまった事、そして盗んだお金はほぼ総て薬を買うのに費やした事など洗いざらいを、話して説明した。

そばに居た母はその場で泣き崩れて私に向かって声を張り上げた。「あなたはもう…何してこよ! もう薬はやめたって又嘘をついてあれ!」と。窃盗の件よりも薬を続けていたことに対し母は怒っていた。26 歳頃から今日まで、薬絡みで何度も問題を起こし、その度に母を困らせ泣かせてしまった。「もうやめる!! 約束する。もう絶対に飲まない。」と、その場しのぎの謝罪を言い訳、嘘を重ねてきた…。何度も親を裏切り続けてきた結果、窃盗の罪を犯して警察に逮捕されるという結末に、我ながら情け無く呆れる始末。刑事が私に逮捕状を読み上げた後、手錠を掛けた。この瞬間、私の日常は終わり、非日常へと変わる。逮捕された事は自業自得ではあるが、私のこれまでの人生で最大の屈辱となり、こんな屈辱的な思いをするのは 2 度と御免である。それには諸悪の根元である「クスリ」を完全にやめなければならない。私は初めて本気で薬物を断ち切る為、今「神戸ダルク」にいます。



一人暮らし まーくん

僕は、30歳のころから覚醒剤を始めました。始めたきっかけは、知り合いの勧めでした。

最初は、注射器が怖くて嫌でした。でも日にちが経ってから覚醒剤をするのが楽しくなって好きになりました。

それで、して行くうちに警察に捕まりました。それで留置所とか拘置所に行くのは、2回目なんで怖くありませんでした。1回目はDVD販売で捕まって拘置所に行きました。

前の執行猶予があるので、2年の判決でした。それで刑務所は、3回行きました。3回目の刑務所からでて、ダルクに入りました。最初入った時は、どんなところだろうと思いました。最初は恥ずかしかったり、緊張したりして誰とも話をしなかったです。だんだんと話をできるようになったので良かったです。それで2年半たって一人暮らしをするようになりました。

一人暮らしを始めて自分で色々なことしないといけないので大変です。1人だから寂しい気持ちもあるんですけど、いつかは、1人の暮らしを楽しめるようになりたいです。

一人暮らしは、この先に行くための第一歩ですから大切です。これからは、自分で何でもできるようにしたいです。掃除もちゃんと誰にみられてもいいようにしたいです。



神戸ダルクヴィレッジ長田デイセンター

神戸ダルク 2021 紹介パート2です。こちらは、新しい神戸ダルク本部とダルクの店舗になります。



ずっとずっと狭い空間の中で活動してきましたが、コロナ禍において、一時的に急に人数が増えた時期に、カリタスジャパン様の支援により、ダルクの移転をいたしました。元々は新聞屋さんの3階建ての物件で、とても広くなったというわけではないですが、前よりも快適な空間に移動しました。場所的にも非常に便利な場所であることと、もともと、港町神戸での外国人労働者が多く滞在する場所で、ヘロインの乱用問題が盛んだった場所で、逆に地域では目立つこともなく、ふつうに地域、商店街の方々と毎日顔を合わせる地域での活動になります。銀行の方や食料品店の方々も気さくに話しかけてくれたり、コロナ禍出なければ、もっと地域活動に参加できる場所であると思います、良い場所を与えられたと考えています。コロナが収まってきたら、近くには、たかとり教会などもあり、「つながり」を重視できると思います。皆様よろしくおねがいします。

SPEAK EASY

新しい神戸ダルクのすぐ近く商店街にて、スケルトンの物件があり、元大工のスタッフに「これ仕上げられる？」と聞いたところ「やります。ていうかやりたい！」ということで、仲間達で全て内装から仕上げた飲食店が、コロナ禍でおくれたものの、まもなく開店します。「スピークイージー」という名前は、直訳すると「大きな声では言えないが」という意味で米国の禁酒法の時代に密造酒を飲ませる酒場を指す俗語でもあります。私たちの活動にユーモアを加えた名前のこの場所が地域とのつながりにて、笑顔を交わす場所になればと、活動していきます。みなさん是非お越しください。絶品のタコスをお届けします。



活動報告

7 月

兵庫県教育委員会講演
兵庫県立松陽高校講演
兵庫県立神戸鈴蘭台高校講演
加古川学園講演

8 月

家島訪問
姫路第一病院訪問
備前三石耐火煉瓦訪問
神戸国際医療交流財団訪問
こころのセンター研修会参加
神戸女学院大学研究生見学訪問

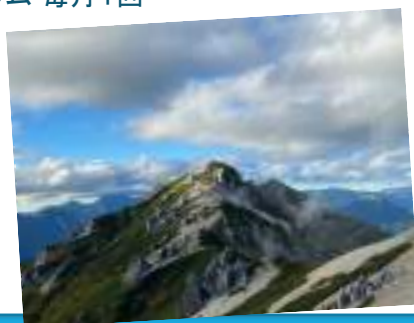
9 月

よりそい弁護士会研修参加
鳥取ログハウス体験
公認心理師国家試験
ダルク35周年フォーラム参加
神戸新聞姫路支社取材(姫路)
ファイザー助成プレゼンテーション
姫路法人登記
しあわせの村歩こう会

10 月

大阪コミュニティ財団研修会
ソフトボール
モンベル石鎚山キャンプ
石鎚山登山
姫路医療専門学校講演
全国リカバリーフォーラム参加
和歌山友ヶ島釣りプログラム
神戸保護観察所引受人会講演
神戸港クルーズ体験
兵庫県立太子高校講演
TC 研究会参加

姫路家族教室 毎月第2土曜日
神戸ダルク家族会 毎月第4日曜日
姫路無料家族相談 毎月第1火曜日
尼崎無料家族相談 毎月第1水曜日
垂水病院すまーぷ参加 毎週金曜日
保護観察所すまーぷ 毎月第4金曜日
ヨーガプログラム 毎月1回



近況報告・活動予定

このまま、コロナが収まっていくのかと思いたいところですが。また緊急事態宣言の繰り返す一年。ということになると、回復支援のあり方も成立しなくなってきました。

前号でも書きましたが、地域の自助グループの立て直しが始められたら、僕らの活動も仲間達の方向性も大きく変化して元に戻っていくでしょう。2年近く、閉ざされてきた中で、元に戻るのには困難だと思いますが、それが希望の方向だとしたら、みんなのモチベーションもプラスに向かう気がします。楽しいことは時間も苦痛も忘れますからね。

支援機関や協力機関などとの小さなワークショップなども、元に戻り、イベントでのタコス販売やエイサー演舞ができていけばいいのになと祈るばかりです。

神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」 年間購読のお願い

この広報誌「スレッシュヨルド」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便物の取得ができました。年間購読費は年6回発行で2000円になります。お申し込みはFAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただければ幸いです。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。

兵庫県の薬物依存症者を助ける活動をご支援ください。
個人会員は1口 3000円(ニューズレター定期購読料を含む)からになります。刑務所内の方々と文通による支援のための切手代などに使わせていただきます。

ご連絡をお待ちしています。

領収書希望の方は一言ご記載ください

神戸ダルク ヴィレッジ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail: kobe.darc@gmail.com

電話相談 来所による面談 メール相談 相談の内容に関しての秘密は厳守します

逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘置所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜 10:00～17:00

メールは24時間 OK. kobe.darc@gmail.com

神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々に支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

ご献金

西園 裕治様 新田 正彦様 セーフティサポート代表 國吉 高虎様 NPO 法人禁煙推進の会兵庫さん代表 大月 勝様
間 明子様 千葉菜の花家族会 富井 健夫様 中田 智恵海様 佐藤 喜三子様 青山 暁様 大野 千春様 岳野 尚代様
琴浦 圭子様

ご献品

山崎 圭様 播磨社会復帰促進センター様 一般社団法人和歌山ダルク様 神戸市社会福祉協議会様 金山 悦子様

(令和3年6月6日～令和3年9月6日到着分・順不同 ※購読料・支援会員費の方を含む)

寄付や献品のお願い

引き続き、非常に苦しい状況の中、お米などのご支援ありがとうございます。不思議なもので、お米のストックがあると、本当に安心します。生活習慣病を気にしながらも、回復初期は食べて栄養をつけて体力的に回復するところから始まります。コロナ禍にて非常にたくさんの方々が寄付や献品を送っていただきましたことに、心より感謝いたします。まだまだ予断は全く許さず、少し行動範囲も広がったものの、自粛生活は続いています。

ご家庭で余っている食料品(米、野菜、乾物、味噌、醤油など)から洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。たくさんありましたら、車で取りにいくこともできます。

回復の中で、普通の家庭の様に安心して家族でご飯が食べられる様な環境はもっとも回復支援に役に立ちます。

もう何度目かわからなくなっている緊急事態宣言中は、外出が少ないため、ストレス発散には、どうしても食事が進んでいきます。心苦しいですが、ご協力をよろしくお願いいたします。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ) コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 0275937

献品の送り先住所 651-0068 神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ2F

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

編集後記

人生とはわからないもので、回復の人生にこれほどまでに辛く苦しいことを経験しなければならないのか？と感じるこの4ヶ月余りだったように思います。しかし、心穏やかな今日の自分がいます。幼虫が蛹になって蝶になるというような感じの気持ちです。結局、いつも悩みに支配されていますが、究極的に、仲間が笑顔だったり、もう一度やる気を出してくれたり、戻ってくる仲間がいたりすることが、私の今の生きる糧となっています。助けられています。もう2ヶ月ちょいでお正月です。今年の正月はみんなで暖かく過ごせるかなと楽しみにしています。

神戸ダルク ニューズレター Threshold (出発点) Vol.27

編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 梅田靖規

印刷 プリントバック

〒651-0068 兵庫県神戸市中央区旗塚通 1-1-20 長坂ハイツ 2F

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

価格 1部 100円 年会費 2000円

(購読料は年会費に入ります)

発行人 関西障害者定期刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4階